

タイトル	日本文化私観				
著者名	坂口安吾	出版者	講談社	発行年	1996
請求記号	081K  2436  v.0-361	資料ID	0718265		

## ✿先生からの推薦資料紹介✿

坂口安吾は「墮落論」や「日本文化私観」が有名で、この本もどこかユーモラスでありながら透徹した見解を示すこれら有名なエッセイを集めたものです。

この本には所収されていませんが、若き日の信長を描いて信長像を一新させたという「織田信長」や戦国時代に来日したキリシタンの壮絶な記録を掘り起こして淡々と描写する「イノチガケ」などの歴史物、天草四郎や道鏡を取り上げた斬新な解釈の「安吾史譚」なども面白く、繰り返し読むたびにどこか新しい発見があり、あるいはなにか勇気づけられる気がして、大学時代に買った文庫本、ぼろぼろになっていますが、いまだに所持しています。

安吾は死の数年前に生まれた子供の名前に「綱」の文字を使いました。「チャック世に現れ アトムまた世に現るとも 綱の用の絶ゆることなかるべし。汝 一本の綱たらば足らむ。綱たるはまた巨力を要す」との子の命名書が残っているそうです。

総合政策学部は、異文化を理解することを基礎とし、様々な専門性を繋いで問題解決にむけて努力することのできるリエゾンパーソンとなる人材を育てることをその理念として掲げています。綱、まさにリエゾンです。安吾の洞察は既存の学問の垣根を悠々と越え、かつその示す視点は既存の考え方を繋ぎつつも画期的なものが少なくないように思います。

そのような仕事をするには本当に「巨力を要」したと思われれます。総合政策学部の学生さんに限らず、新入生のみなさんにぜひ手に取って読んでみてほしい作家です。

まずは、安吾の怒号「嘘をつけ！ 嘘をつけ！ 嘘をつけ！」をこの紹介本のなかから探してみてください。

それから、安吾との生活を描いた坂口三千代の「クラクラ日記」もお薦めです。

